

節約に努める

私は東京オリンピックの翌年の1965（昭和40）年に入社した。それ以来、現在まで持ち続けているのは「もったいない」の心だ。大手企業のサプライヤーとして、より安価で高品質の製品を納めることが使命である。顧客に満足してもらうには日頃の改善の積み重ねに尽きる。全社員がこの心を持つことで、よい結果が出せると信じている。全社員をその気にさせるには、私が率先することだ。

また有限である資源の節約で、少しでも多くの資源を子孫に残すことは、地球環境のためにもなると考えてきた。60年間、車に乗ってきたが、30秒以上のアイドリングをしたことはない。もちろん踏み切りで列車を待つ時もエ

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 21



5Sの行き届いた第4工場

「もったいない」の心

エンジンを切る。車にとっては良くない運転かもしれないが、長い下り坂ではニュートラルで走る癖がついてしまった。現在でも同じ車であれば、皆さんよ

り20%程度少ないガソリンで走る自信がある。ありがたいことに最近では、カーメーカーがアイドリング・ストップやハイブリッド車を販売してくれ

で、変な運転をしなくても良くなった。当社には12カ所に手洗いがある。全

てウオッシュレットの便器を採用しているが、20個の便器にタイマーを取り付けた。出勤直後に11時間のタイマーを回すことで、アフターファイブから翌朝まで、また土日を含めると便座と水を温める電力は、付けっ放しと比べて、30%の電力消費で済む。電力料を計算してはいないが、70%の無駄をなくすという心がけが大切なのだ。

社長がこんなに細かいことをしてい

る、と思われることがよいのだ。それを社員が見習い、100人余りの社員がもったいないを実践してくれることで、私が思い付く何倍もの節約や合理化が実現する。このような例を過去数十年間で数え切れないほど積み重ねてきた。当社の工場内にはさまざまなアイデアが詰まっているが、今後の改善活動に終わりは無い。

少人数で安全に生産を行えるようになったのは、もったいないの心から始まったのだ。危険な作業の撲滅や品質管理、疲労の少ない作業方法、床に油のない工場…。社員には、私はけちではないよ、と伝えている。節約し合理化が進み利益が増えれば、必ず決算賞与として社員に還元しているからだ。たった6文字の心の全社員への定着が、当社をして70年余り生き延びさせたのだ。